

教育活動	評価の観点		評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
学習指導	各教科の年間指導計画、評価規準が作成され、それに沿った授業作りが展開されている。	B	B	年間指導計画、評価規準に沿った指導はできているが、授業の「めあての明確化」等、今後も子どもに共通の持てる授業展開ができるよう、改善しながら行っている。	「書くこと」を研修のテーマにして4年間取り組んできた。全学年とも「書くこと」に対する意識の向上がみられる。昨年度より系統性が課題としてあげられているが、はつきりとした改善が見られていないのが現状である。今後も「書く力」の育成のため「かくかくタイム」を継続し。「伝え合う力」が身に付けられるよう取組んでいきたい。	
	基礎基本を明確にし、教材の精選や指導方法の工夫をし、定着に向けた継続した取組を行っている。	B		常に学年間で話し合いを密に持ち、教材や指導方法について話し合い工夫を重ねることができた。		
	児童一人一人の個性や能力に応じた学習指導が、展開されている。	B		児童一人一人の個に合わせた丁寧な指導を行っているが課題を持つ児童が増えてきているため、今後も引き続き、時間の確保をどうするのか工夫が課題である。		
	児童が進んで読書をするような取組を行っている。	B		読書意欲を持たせるため「本紹介カード・読書貯金」を行った。来年も見直しを加えながら取組んでいく。		
	総合的な学習の時間をはじめ、児童・地域の実態を踏まえ、創意工夫した活動が展開されている。	A		対外的な活動やゲストティチャーに来ていただき、児童の意欲の向上を目指す取組が活発に行われた。今後も創意工夫していく。		
	思いや考えを伝え合い、認め合える集団を育てるための指導方法の工夫をしている。	B		お互いの思いや考えを伝え合い、認め合える集団作りは、継続的な取組が必要であることを職員間で確認し、今後もしっかりと学習指導につなげていく。		
生徒指導	生徒指導に対する職員間の共通理解が図られ、全体体制による実践が展開されている。	A	B	年度初めの生徒指導年間指導計画を共通理解して、児童の実態に合わせて学年に応じた指導を行っている。今後も続ける。	挨拶については「自らできる、できない」がはっきりと分かれているように感じる。児童会活動などを通じて、児童自身に問題意識を持たせる取組が必要であると感じる。立場や状況を自覚し、当たり前前に挨拶のできる児童を育てていくために今後もしっかりと取組んでいきたい。 昨年の課題として挙げた「ジェンダーフリーの観点からの見直し」であるが、変更して行くには具体的内容（標準服の変更等）学校だけで方策を考えるには難しい点が多い。「ジェンダーレス」の観点も入れながら、今後数年かけて服装（標準服等）を考えていく。	・いつも先生方が子どもたちのことを一番に考えてくださっていることが、日々の子ども様子から感じられます。 ・子どもたちの元気な様子が見られ、嬉しい限りです。学校としても先生方が一丸となり子どもたちのために頑張っている姿は、我々も外部から見ているとよく認識できています。
	進んで挨拶をする指導の充実が図られている。	B		「進んで挨拶ができる学校」が伝統となるよう、目的意識を持たせて取組んでいく。		
	交通安全教室や避難訓練、防犯教室等を実施し、安全に対する児童の意識の向上を図るとともに、緊急時に対応する実践力が培われている。	B		定期的に行事として計画して実施して、反省・評価を行い課題を見つけ、次につなげている。		
	不審者対応及び危機管理マニュアル等を作成し、職員間の共通理解のもとに、緊急時の対応に備えられている。	A		危機管理マニュアルを作成し共通理解をしている。シミュレーションを通して緊急時に備えている。		
	保護者や地域、関係機関との連携が図られている。	B		災害時引き渡し訓練を隔年で実施し、その反省を踏まえ保護者への啓発と理解、緊急時の連携に努めている。「引渡訓練」毎年実施していく。		
特別活動	児童の主体的で意欲的な学級活動や集会活動が展開できている。	B	B	学級活動及び集会活動を従来通り展開した。今後も更なる工夫を加え取組んでいく。時間の確保に課題がある。	児童が集える集会活動なども再開できるようになった。ただ、活動に行くことに重点を置くのではなく、計画段階で児童が主体的に活動の展開が行われることに留意して進めて行くことを大切にしたい。学級活動では、話し合いを中心とした児童個々の考えや思いが反映される学級活動の充実を図っていく必要がある。子どもたちの自主性・主体性を育む活動の在り方を今後も考えていきたい。	
	児童が意欲的に学校運営にかかわり、学校生活の充実と向上のための児童会活動が展開されている。	B		計画委員会を中心に各委員会が意欲的に活動しているが、時間的な制約及び主体性を育む活動形態が課題である。		
	児童自らが楽しみ、異学年と共通の興味関心を高め合う主体性あるクラブ活動が展開できている。	B		児童の希望のクラブをできるだけ割り当てて、興味関心を高めた活動を行っている。		
	児童が楽しいと感じ、精選された内容で以下の各種学校行事が行われている。	A		運動会や校外学習において、児童の充実感や達成感を味わわせる行事を行っている。		
人権教育	校内推進計画、年間指導計画をたて、重点課題を中心に系統的な指導が展開されている。	B	B	校内推進計画や学年の重点教材をもとに、学年で指導法を話し合い指導にあたっている。	校内推進計画及び重点教材を中心に各学年とも実態に即した形で計画的に取り組んでいる。今後も児童の人権意識が高まりや友だちを大切にしてつながり合うなかまづくり、自尊感情を高める取組ができているかをしっかりと検証し、実態把握に努めた上で、次年度へつなげていくことを職員間で確認している。	
	いじめや日頃のトラブル、子どもの悩みなどについて、丁寧に内容をつかみ、共有化しながら対応できている。	A		日頃のトラブルに丁寧に対応するとともに、いじめの新指針を踏まえ、年2回のいじめアンケートを行い、それを元にいじめ検討委員会で話し合い、その結果を学年、学校全体で共有化して対応している。		
	自尊感情と相手を思いやる心を育む取組を行っている。	B		良いところ見つけなど、互いを大切にできるよう日々の生活の中で自分たちの言動を振り返らせる取組を行ってきた。今後も、子どもたちの自尊感情が高まりを感じられる取組になるよう改善しながら取り組む。		
	校内授業研修、各研究会、研修会等を通して、教職員が人権感覚を高めるよう努めている。	B		校内での人権授業研修の時間を設定したり、市の人権教育研究会で実践報告を行ったりしている。		
	各学級の実践や児童の様子等を話し合い、共通理解が図られている。	A		年に3回（急を要する場合は臨時的開催あり）、配慮を必要とする児童について話し合いをもち、共通理解をして取り組んでいる。		

特別支援教育	特別な支援を必要とする児童の実態把握に努め、教育支援計画や個別の指導計画等を作成して支援・指導に当たっている。	A	B	「すまいるノート」の作成とともに、日頃から保護者と共通理解を図りながら計画的に支援・指導を進めてきた。	昨年に引き続き月1回のサポート委員会、必要に応じての臨時校内委員会を開催し、きめ細やかに支援を要する児童の実態把握と適切な支援の方向性を検討することができている。外部機関への接続も迅速に対応できた。今後も支援を要する児童の実態把握は全職員で共通認識し、丁寧で継続的な取り組みを進めていく。
	一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援を行っている。	B		研修会や専門家に指導を仰ぎ、そこで学んだことをもとに、個々のニーズに合った支援法や教材教具の工夫に努めている。子どもたちがより分かりやすい学びにつながるよう、研修、研究の充実を図っていく。	
	実態交流や校内サポート委員会、ケース会議を行い、職員の共通理解のもとに適切な児童支援・指導を行うよう努めている。	A		外部機関と密に連携を行い、適切なアドバイスを受けて、職員間で情報を共有しながら、指導・支援を進めることができた。	
	学級での仲間作りを土台とし、支援を必要とする児童への正しい理解を深める指導に努めている。	B		交流会・通信の発行・全校への発表の場の設定など、特別支援学級から発信を行っている。学校内で温かいつながりが自然に生まれている。今後もそれをより広める指導を行う。	
健康安全教育	日々の健康観察を通して、児童の様子が把握できている。	A	B	毎朝、学級での健康観察を行い、学校全体で集約し、児童の様子を把握することができた。	感染症予防の観点からも、健康観察や保健指導を充実させ取り組む。また性教育についても一層の充実を求め継続して取り組んでいく。 食育における「早寝、早起き、朝ご飯、スッキリうんち」の取組は朝ご飯の摂取児童の割合の上昇につながっている。しかし残食については、課題がある。学年・学級児童の実態をしっかりととらえながら残食を減らす取組に繋げていく。 ここ数年、体育部で外遊びの紹介や工夫した運動を考え児童の外遊びを充実させる取組を行ってきた。今後も改善や工夫を加え取組んでいく。 ケガや事故の防止のため、今後も専門知識を有する講師に来ていただき講義を受ける研修を行っていく。
	学年の発達段階や児童の実態に応じた保健指導が行われている。	A		各学年に応じた保健指導を学年担任と養護教諭で相談しながら計画し、適切に実施できた。	
	各学年の年間指導計画に基づいた性教育が、年間を通して実践されている。	B		年間計画に基づいた性教育を行い、年度末には総括冊子を作成することができた。	
	学年の発達段階や児童の実態に応じた給食指導が行われている。	B		栄養についての指導や残食をなくすための指導など給食主任と担任、そして児童の委員会活動でも食育をとりあげ、啓発も行うことができた。	
	衛生に気をつけて給食時間が過ぎるように努めている。	A		年度初めに給食指導について共通理解をし、給食におけるマナーや残食を減らす指導を行うことができた。	
	体育の授業では、全員の運動量の確保ができている。	B		体育部を中心に、運動量の確保を目指し工夫して体育の授業を計画している。今後も児童の興味関心が高まる取組を工夫をしていく。	
	体育の授業以外で、体力向上に向けて取組が行われている。	A		外遊びを推奨し、遊びを通した体力の向上を呼びかけることができた。今後も工夫や改善を加え取組んでいく。	
研修・研究	校内研修の内容や計画が職員間で十分に共通理解され、授業実践を通した研修が行われている。	B	B	学校目標のもとに、職員全体で共通理解して取り組んでいる。学年内での授業公開など工夫をしながら授業力向上のため実践を積み重ねている。	校務支援用のPCを活用し個人個人が受けた研修内容の共有や事務連絡等有効に活用できていることが伺える。今後とも就業時間の短縮及び業務内容を充実に繋がる活用の検討をしていきたい。
	校外研修によって得られた内容や気づきが、日々の授業実践等に生かされている。	B		校外での研修で得たものを、同僚職員と共有できる場(時間)がなかなかもない現状がある。時間の確保が課題である。	
教材・教具 環境整備	教材・教具の整備、管理が行き届き、教育活動に効果的に活用されている。	B	A	効果的有効な活用することはできているが、使用後の管理については今後も気をつけていく。	教育委員会より導入していただいたPCの有効活用は進んでいる。更なる有効な活用に向け、ICT担当を中心に計画的な運用を図っていきたい。
	保護者負担の副教材や学習帳などの精選を行うとともに、日々の学習に有効に活用している。	A		学年会計予算から適切な教材を選定して、有効に活用することができた。	
	教室や廊下の掲示物など教育環境は計画的に整備されている。	A		学年や委員会で季節や学習内容に合った掲示物の整備を行うことができた。	
施設・設備	様々な教育活動の場において、施設・設備が有効に活用されている。	A	B	施設設備を有効に教育活動に生かし活用することができた。	施設・設備の安全点検を年3回実施し、必要に応じて随時補修・修繕を心がけているが、校舎全体に経年劣化による老朽化が見られる。市当局にお力添えをいただきながら環境整備に取り組んでいる。
	施設・設備の点検を定期的に行い、安全が確保されている。	B		施設設備の老朽化が進んでおり、十分な安全点検が必要である。	
	校地・校舎の維持管理を教職員が協力して行っている。	B		職員からはかなりの修繕、改修箇所があがってきているが、修繕箇所が多くまた経年劣化により修繕が難しい箇所が多い。優先順位を決め、修繕改修に努める。	

・教員不足の問題、教員の働き方改革について、抜本的な対策なしでは現場の対応は限界があるように感じる。

※評価はA・B・C・Dの4段階